

副卵巣嚢腫ニ就キテ

金澤醫科大學産科婦人科學教室(主任笠森教授)

醫學士 遠藤幸三

Kôzô Endô

(昭和18年7月22日受附)

内容抄録

副卵巣嚢腫ノ7例ニ就キ、其ノ臨床所見ト組織所見 正腫瘍タル所以ヲ述ベタリ。
トヲ攻究シ、斯テ本嚢腫ノ本態ニ就キテ考察シテ、眞

目次

第1章 緒言	4) 遺傳關係
第2章 症例	5) 自覺症狀
第3章 總括並ニ考按	II 剔除嚢腫ノ總括所見
I 副卵巣嚢腫ノ臨床所見	III 副卵巣嚢腫ノ本態ニ關スル考察
1) 患者年齡	第4章 結論
2) 妊娠、分娩トノ關係	文獻、附圖説明、附圖
3) 月經トノ關係	

第1章 緒言

副卵巣嚢腫ノ頻度ハ卵巣及ビ副卵巣腫瘍總數ノ約9—10%ヲ占メ、菲薄ナル嚢壁ヲ有スル單房性嚢腫ニシテ、臨床的ニ卵巣嚢腫ニ類似セル症狀ヲ發ス。本嚢腫ハ原腎ニ由來スル副卵巣ヨリ發生セル溜嚢腫トセラルレドモ未ダ定説ヲ得

ルニ至ラズ。余ハ我教室ニ於テ、手術ニ依リ蒐集サレタル本嚢腫ノ7例ニ就キ研究ヲ命ゼラレタルニ依リ、其ノ臨床所見並ニ組織所見ニ就キテ報告シ、併セテ本嚢腫ノ本態ニ關シテ、考察セントス。

第2章 症例

各症例ノ臨床所見、手術所見並ニ剔除標本ノ肉眼及ビ組織所見ハ別表ノ示ガ如シ。何レモ開腹手術ニ據リテ剔除セラレ、患者ノ術後經過ハ順調ニシテ全治退院セルモノナリ。

剔除標本ヲバ「フォルマリン」ニ固定シ、嚢腫壁ノ一

部ヲ採取シテ約3μノ「パラフィン」切片トナシ「ヘムラウン・エオジン」重染色ヲ施シテ一般所見ヲ檢シ、更ニ「ヘムアラウン・ワンギーソン」並ニ「ワイゲルト」染色法ニ據リテ夫々筋纖維並ニ彈力纖維ヲ檢索シタリ。

副卵巣囊腫ノ臨床並ニ組織所見

患者姓名	高○や○	谷○み	濱○き○	辰○き○	山○き○	佐○と○	押○ス○エ	
年 齡	25	46	23	51	21	44	26	
主 訴	腫 瘤 感	下 腹 痛	腫 瘤 感	薦 骨 痛	排尿痛, 頻尿	下 腹 痛	過 多 月 經	
其他ノ自覺症	—	腫 瘤 感	過 多 月 經	頭重, 全身倦怠	—	—	—	
月 經	順 調	順 調	順 調	48歳ヨリ閉經	順 調	順 調	順 調	
經 産 數	2	5	0	0	0	2	0	
最終分娩又ハ結婚後ノ經過期間	最終分娩後2年	最終分娩後5年2月	結婚後1年1月	結婚後33年	結婚後1年5月	最終分娩後11年	結婚後8年	
配偶者ノ有無	健 在	健 在	健 在	5年前死亡	健 在	健 在	健 在	
腫瘍遺傳關係	—	—	—	—	—	—	—	
合 併 症	妊娠第2月	—	—	右卵巣小胞變性	—	左卵巣小胞變性	子宮發育不全症子宮後轉症	
囊腫ノ位置及ビ大サ	右, 鷲卵大	左, 小兒頭大	左, 超手拳大	左, 小兒頭大	右, 鷲卵大	右, 超小兒頭大	左, 櫻實大	
囊腫ノ癒着	—	+	—	+	—	+	—	
莖ノ有無	—	廣靱帶ヨリナル短莖	廣靱帶, 卵管, 卵巣提靱帶ヨリナル約3cmノ莖	—	—	廣靱帶, 卵管ヨリナル短莖	—	
囊腫ノ内容	水様透明液	黒褐粘稠液	水様透明液	稍々濁濁乳狀液	水様透明液	微黄色透明液	水様透明液	
囊腫内面覆蓋上皮	細胞ノ形態	扁平狀, 所々ニ剝脱ス	扁平狀	扁平狀, 所々ニ剝脱ス	扁平狀, 所々ニ剝脱ス	低骰子形—扁平狀	圓壩狀, 乳嘴部著シク多列	
	原形質	乏シ	乏シ	極メテ乏シ	極メテ乏シ	稍々多量	稍々多量	
	核	顆粒狀濃染	顆粒狀濃染	壓縮濃染	壓縮濃染	稍々淡染長橢圓形	淡染多角形	
	鬚毛上皮	—	少數アリ	—	—	少數アリ	多數アリ	
囊腫壁ノ結構	厚徑(mm)	0.5	0.7	1.5	0.8	1.5	1.0	
	各層ノ發達	板狀層ノミヨリナル	板狀層ノミヨリナル	網狀層ノ發育良好	板狀層ノミヨリナル	網狀層ノ發育良好	網狀層菲薄	網狀層, 板狀層ノ發育良好
	彈力纖維	—	+	+	—	+	+	
	筋纖維	—	—	+	—	+	—	
附圖番號		2		3	6	1	4.5	

第3章 總括並ニ考按

I. 副卵巣囊腫ノ臨床所見

1) 患者年齢

7例中20歳代4名, 40歳代2名, 50歳代1名ヲ算シ, 總テ既婚者ニシテ, 6例ハ正常月經ヲ

有シ, 1例ハ閉經婦人ナリ. 而シテ1名ノ寡婦ヲ除ケバ他ハ總テ有夫者ナリ.

Nürnberger⁽¹⁾ハ171例ニ就キ, 次表ノ如キ年齢分布ヲ報告ス.

年 齡	0—10	11—20	21—30	31—40	41—50	51—60	61—70
例 數	3	7	71	55	28	3	4

而シテ0—10歳ノ3例中2例ハ新産兒ナリ。即チ171例中21—50歳ニ於テハ154例、爾餘ノ年齢ニ於テハ14例ニ過ギズシテ、性成熟期ニ於テ最モ頻發スルヲ示スモノナリ。

Wichmann⁽⁴⁾ハ副卵巣囊腫ノ發生ト性生活トハ一定ノ關係ヲ有ストナシ、Lippert⁽⁵⁾ハ有夫者ニ頻發ストナセリ。之レ副卵巣上皮ノ分泌機能ハ性成熟期ト胎生期トニ於テ旺盛ナルヲ證シ得タル余ノ報告^(8,10,11)ニ一致スルモノナリ。

2) 妊娠、分娩トノ關係

7例中經産婦ハ2名ニシテ、1例ハ妊婦ナリ。4名ノ未産婦ノ内ニテ2例ハ不妊症ヲ有シ、他ノ2例ハ結婚後1年5月以内ナリ。不妊症ノ1例ハ子宮發育不全症並ニ後轉症ヲ有シ、他ノ1例ニ於ケル反對側卵巣ハ小胞變性ヲ呈セリ。經産婦ノ1例ニ於テモ反對側卵巣ハ小胞變性ニ陥リ、該患者ハ手術時(44歳)ニ至ル迄11年間不妊ナリキ。

Wichmann⁽⁴⁾ハ一般婦人ノ不妊率ヲ9.5%、副卵巣囊腫患者ノ不妊率ヲ17.1%トナセリ。Goudall⁽⁶⁾ノ報告ニ依レバ、副卵巣囊腫患者ノ腫瘍反側卵巣モ亦病變ストセラル。余モ上記2例ニ於テ、組織學的ニ他側卵巣ニ於ケル卵胞ノ退行性小胞變性ヲ認メタレドモ、卵胞又ハ黄体存續、黄体囊腫等ノ特殊所見ヲ認メザリキ。

3) 月經トノ關係

7例ハ共ニ正常ナル月經周期ヲ有シ、2例ハ過多月經ヲ有セリ。本症ト過多月經或ハ月經困難トノ合併ヲ報ズル文獻アリ。

4) 遺傳關係

7例共遺傳疾患ヲ有セズ。家族歴ニ卵巣並ニ副卵巣腫瘍患者ヲ見出サズ。文獻モ亦本囊腫ノ遺傳關係ニ就キテ述ブルモノナシ。

5) 自覺症狀

7例中3例ハ疼痛ヲ訴ヘ、2例ハ下腹痛、1例ハ薦骨痛ヲ訴フ。他ノ4例中、過多月經ヲ有

スル者2例、排尿障礙ヲ訴フル者1例ニシテ、腫瘤感ノミヲ訴フル者1例ナリ。此等ノ自覺症狀ハ囊腫剔除ニ依リテ全ク消失セリ。疼痛ヲ有セル者ニ於テハ、手術時ニ何レモ癒着ヲ認メタリ。副卵巣囊腫患者ノ自覺症狀ハ概シテ輕微ニシテ、特異ノ症狀ヲ缺如ス。即チ疼痛ハ癒着ニ依リテ起リ、時トシテ月經障礙、排尿障礙アレドモ、不定ナリ。

II. 剔除囊腫ノ總括所見

1) 剔除囊腫ハ表示ノ如ク、櫻實大乃至超小兒頭大ニシテ、球形ヲナス。最小ナル櫻實大囊腫ハ開腹手術ニ際シ偶然發見剔除セルニモノシテ、爾餘ノ鵝卵大乃至超小兒頭大ノ6例ハ卵巣囊腫ノ疑診ノ下ニ、開腹剔除セルモノナリ。7例中4例ハ無莖ニシテ韌帶内ニ發育シ、他ノ3例ハ有莖ナリ。櫻實大囊腫壁ノ厚サハ一様ナラズ、一部ハ約3~4mmノ厚徑ヲ有シ、其ノ外面ハ平滑ナレドモ、内面ノ肥厚部ハ粗糙ニシテ無數ノ乳嘴様突起ヲ有セリ。大ナル6例ノ囊腫壁ハ極メテ菲薄ニシテ、厚徑1.5~0.5mmヲ算シ、内外兩面ハ平滑ナリ。壁外面ニハ囊腫壁血管ト腹膜血管トハ互ニ交錯シテ網狀ヲ成シ、本囊腫ノ有スル特有所見ヲ呈ス。囊腫内腔ハ何レモ單房性ニシテ、5例ハ水様透明液、1例ハ稍々濁濁乳狀液、1例ハ黑褐粘稠液ヲ容レ、後者ニハ赤、白血球ヲ證明セリ。大ナル6例ニ於テハ、卵管ハ囊腫壁ニ密着シテ輪狀ニ之ヲ圍繞シ、卵巣ハ囊腫ニ近接シテ明別セラレタリ。

2) 組織學的所見トシテハ、囊腫壁ハ之ヲ被覆セル腹膜ヨリ分離觀察シ得レドモ、菲薄ナル囊腫壁(4例)ニ在リテハ、兩層ノ境界不鮮明ニシテ、血管ニ富メル鬆球結締織層ヲ介シテ兩層ハ互ニ移行ス。囊腫壁ノ稍々厚キ3例ニ於テハ、囊腫壁ト腹膜トハ明別セラル。囊腫壁ハ上皮層、上皮層下ノ網狀結締織層並ニ外層ナル板狀結締織層ノ3層ヨリ成ル(第6圖)。網狀層ハ

核＝富メル織細鬆疎ナル結締組織纖維ヨリ成リ、
上皮層下＝於テ稍々緻密ナリ。然レドモ内容壓
＝依リテ伸展セラレタル囊腫壁＝在リテハ、本
層ト板狀層トハ明別セラレザルニ至ル（第1、
3圖）。板狀層ハ核＝乏シキ多量ノ結締組織維
ヨリ成リ、外方＝向ヒテ緻密トナル。板狀層＝
ハ少量ノ彈力纖維ト筋纖維トヲ認メタリ。囊腫
壁内面ハ概シテ單層上皮ヲ以テ被覆セラル。

上皮細胞ノ形態ハ囊腫腔内壓、腫瘍ノ老幼、
上皮分泌機能ノ存否等＝依リテ變化シ、幼若小
囊腫ノ内面上皮ハ平滑面＝於テハ、單層乃至多
列圓嚮狀ヲ成セドモ、乳嘴面＝在リテハ、多列
度ヲ増加シ、増殖ノ狀極メテ顯著ナリ（第4、
5圖）。細胞核ハ高圓嚮狀乃至多形ニシテ、濃
染密接シテ亂雜＝排列ス。鵝卵大以上ノ囊腫＝
テハ上皮細胞ハ單層骰子形乃至扁平狀ヲナシ、
骰子形上皮ハ原形質＝富ミ、淡染多角形核ヲ藏
シテ細胞ノ分泌機能ヲ維持セルモノノ如シ。
斯ル上皮ハ多數ノ鰓毛上皮細胞ヲ包含ス（第1
圖）。反之、扁平化セル上皮細胞ハ原形質＝乏
シク、濃染シテ顆粒變性或ハ濃縮變性＝陷レル
核ヲ有シ。細胞ノ分泌像ヲ認メシメズ。即チ内
壓＝因リ壓迫萎縮＝陷レルモノト思考セラル
（第2、3圖）。而シテ鰓毛上皮ハ7例中4例＝
於テ認メラレタリ。

III. 副卵巢囊腫ノ本態＝關スル考察

1. 囊＝發表セル所見⁽¹⁾＝依レバ、人副卵
巢橫管上皮細胞ハ原形質＝富ミ、淡染核ハ橢圓
形乃至球形ヲナシテ單層＝整列シ、多列ヲナス
コト稀ナリ。副卵巢縱管上皮ハ橫管上皮＝比シ
多列ヲナスモノ多シ。サレドモ上皮面ハ平滑ニシ
テ、乳嘴突起ヲ形成スルコトナシ。

2. 余ハ囊＝海猿副卵巢橫管上皮ハ各種性
「ホルモン」＝反應シテ、増殖ト分泌トヲ營ムコ
トヲ識レリ。而シテ此時性「ホ」ノ作用タルヤ、
子宮粘膜＝於ケルト等シク、卵胞「ホ」ハ増殖性
ニ、黃體「ホ」ハ分泌性＝作用シ、卵胞「ホ」ノ大
量＝因リテ副卵巢上皮ノ増殖ハ異常＝充進シ、
管腔ハ囊胞狀＝擴大シテ肉眼ニテ認メ得ルニ至

レリ。性成熟期＝於ケル海猿並＝婦人＝於テ
ハ、橫管上皮ハ自己卵巢周期＝伴ヒテ周期的＝
増殖並＝分泌機能ヲ營ムコトヲ識レリ。

3. 副卵巢囊腫ノ真正腫瘍ナリヤ、溜囊腫ナ
リヤハ尙ホ不明＝屬ス。上述ノ如ク副卵巢上皮
ハ性成熟期＝於テ周期的＝増殖ト分泌機能トヲ
營ミ、此時副卵巢ハ排泄管ヲ有セザルガ故ニ、
正常分泌物ハ管壁ヨリ吸收セラレテ、溜囊腫ヲ
形成スルコトナシ。而シテ副卵巢囊腫ヲ溜囊腫
ト假定セバ、(1)個々ノ副卵巢橫管ハ互ニ吻合
スルコトナシ(Wichmann⁽⁵⁾)。 (2)副卵巢囊腫
ハ單房性ニシテ一個ノ橫管ヨリ發生スト説カ
ル。 (3)仍テ分泌ハ多數ノ橫管中ノ或一管＝於
テノミ充進シテ、溜囊腫ヲ形成セリト推定セザ
ルベカラズ。 (4)然ルニ内分泌作用＝基ク上皮
ノ分泌充進ナラム＝ハ、總テノ橫管上皮ハ平等
＝反應スベキナリ。以上ノ諸點＝基キ副卵巢囊
腫ハ「ホルモン」性ノ分泌充進＝因ル溜囊腫＝非
ズト思考セラル。

然ラバ副卵巢囊腫ハ分泌旺盛ナル真正腫瘍ナ
リヤ。 (1)既述ノ櫻實大ノ小囊腫＝於テ、上皮
ノ旺盛ナル増殖像ヲ認メ得タリ。 (2)爾餘ノ大
囊腫ハ上皮細胞ノ増殖ヲ認メシメザレドモ、之
レ内壓＝基ク萎縮像＝外ナラズ。 (3)Wichmann⁽¹⁾
ハ副卵巢囊腫例ノ $\frac{1}{3}$ — $\frac{1}{6}$ ＝於テ、囊腫壁内面
＝無數＝分岐セル小乳嘴狀突起ヲ認メタリ。

以上ノ諸點ヨリ考察スルニ、副卵巢囊腫ハ眞
正腫瘍ナリト思考セラル。

4. 余ハ前研究＝於テ、副卵巢橫管上皮ハ内
分泌機能ヲ有スルコトヲ推論セリ。仍テ副卵巢
囊腫ノ内分泌作用モ亦推察セラル、所ナレド
モ、余ノ症例並＝文獻＝於テ此種ノ作用ヲ認メ
難シ。即チ余ハ2例＝於テ他側卵巢ノ小胞變性
ト2例＝於ケル過多月經トヲ認メタレドモ、此
等症狀ト副卵巢囊腫トノ關係タルヤ明瞭ナラ
ズ。然レドモ囊腫液ハ正常分泌物＝非ズシテ病
的產物ナルガ故ニ、之ヲ以テ副卵巢ノ生體＝及
ボス内分泌作用ヲ否定スル根據トハ爲シ難キナ
リ。

第4章 結 論

副卵巢囊腫ノ7症例ニ就キテ臨床並ニ組織所見ヲ検索シテ、次記ノ結論ニ達シ得タリ。

1. 患者ハ總テ既婚婦人ニシテ、6例ハ正常月經ヲ有シ、1例ハ閉經期婦人ナリ。本囊腫ノ生殖能力ニ及ボス影響ヲ認メ難シ。遺傳關係ハ不明ナリ。

2. 特異自覺症ヲ認メ得ズ。手術時ニ囊腫ノ癒着ヲ發見セル例ニ在リテハ、總テ疼痛ヲ訴ヘタリ。2例ニ於テ過多月經ヲ認メタリ。

3. 2例ニ於テ他側卵巢ニ卵胞性小胞變性ヲ認メタリ。

4. 囊腫ハ櫻實大乃至超小兒頭大、球形、單房性ニシテ、内腔ニ水様透明液、輕度溷濁乳狀液又ハ黒褐粘稠液ヲ包藏セリ。囊壁ハ櫻實大ノ小囊腫ニ於テハ、内面ニ無數ノ乳嘴突起ヲ有シ、壁ノ厚徑稍々大ナレドモ、鵝卵大乃至超小兒頭大ノ6例ニ於テハ、囊壁ハ菲薄ニシテ、内外兩面共ニ平滑ナリ。

5. 組織學的ニハ、囊壁ハ上皮層、網狀結締織層及ビ板狀結締織層ノ3層ヨリ成レドモ、内容壓ニ依リテ伸展セラレタルモノニ在リテハ、兩結締織層ハ明別セラレズ。上皮ハ概シテ單層ヲ成シ、櫻實大ノ小囊腫ノ上皮細胞ハ乳嘴面ニ於テ著シク多列化シテ増殖像顯著ナレドモ、爾餘ノ囊腫ニ在リテハ單層骰子形乃至扁平狀ヲ成シ、骰子形上皮ハ原形質ニ富ミ、淡染多角形核ヲ藏シテ分泌機能ヲ維持スレドモ、扁平上皮ハ内壓ニ因ル萎縮像ヲ呈シ、原形質ニ乏シク、核モ亦變性ス。

6. 本報告ニ於ケル副卵巢囊腫並ニ前報ニ於ケル海猿及ビ婦人ニ於ケル副卵巢所見ニ基キテ考察セバ、副卵巢囊腫ハ溜囊腫ニ非ズシテ真正腫瘍ナリト思考セラル。

拙筆ニ臨ミ御懇篤ナル御指導ト御校閲ヲ賜リタル恩師笠森教授ニ衷心ヨリ感謝ノ意ヲ捧グ。

文 獻

1) **Nürnbergger**, Die Erkrankungen des Nebeneierstockes, Halban u. Seitz, Biologie u. Pathologie des Weibes V. Band, I. Teil (1926).
 2) **品川**, 巨大ナル副卵巢囊腫. 長崎醫學會誌, 9, (昭和6年).
 3) **Dierks, Klaas u. M. Becker**, Untersuchungen über den Inhalt von Parovarialcysten. Arch. f. Gyn. 152 (1933).
 4) **久米**, 副卵巢囊腫内容液中所謂腦下垂體前葉「ホルモン」ニ關スル知見. 日本婦人科學會誌, 36卷, 3號 (昭和16年).
 5) **Wichmann**, Das Epoophoron, Seine Anatomie u. Entwicklung bei Menschen von der Embryonalzeit bis ins Greisenalter. Helsinki (1916).
 6) **Kittner u. Haus**, Hypophysen-vorderlappenhormon im Inhalt einer

Parovarialcyste. Zbl. Gynäk. 57 (1933). 7)
Pfannenstiel, Veit, Handbuch der Gynäk. 1898. 8) **遠藤**, 副卵巢ノ構造並ニ機能ニ關スル研究, (其1). 胎生期, 幼若期, 成熟期並ニ妊娠期ニ於ケル海猿副卵巢ノ組織學的研究並ニ副卵巢ト卵巢網トノ比較. 十全會雜誌, 第48卷, 第8號 (昭和18年). 9) **同人**, 同上 (其2). 各種性「ホルモン」ノ副卵巢ニ及ボス作用. 同誌, 同卷, 第9號 (同年). 10) **同人**, 同上 (其3). 性周期ノ變遷ニ伴フ成熟海猿副卵巢ノ組織學の所見. 同誌, 同卷, 第10號 (同年). 11) **同人**, 同上 (其4). 人副卵巢ノ組織學の所見. 同誌, 同卷, 第12號 (同年).

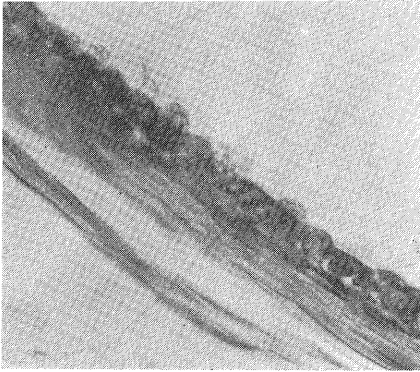
附 圖 説 明

特記セザルモノハ總テ「ヘムアラウン、エオジン」重染色標本ナリ。

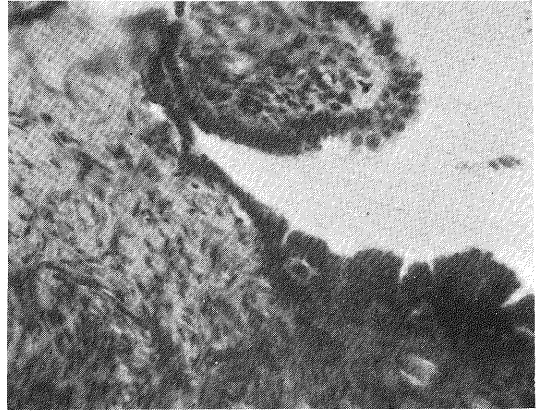
1. (×600) 佐○と○, 副卵巣囊腫内面ノ骰子形上皮ト鬚毛上皮トヲ示ス。
2. (×800) 谷○み, 囊腫内面ノ扁平上皮ト鬚毛上皮トヲ示ス。
3. (×800) 辰○き○, 原形質ニ乏シキ覆蓋扁平上皮ヲ示ス。
4. (×300) 押○ス○エ, 小囊腫内面ニ於ケル乳嘴狀突起ト此部ニ於ケル圓壻上皮ノ著明ナル多列像ヲ示ス。
5. (×700) 同上囊腫内面平滑部ニ於ケル圓壻上皮ノ多列像ヲ示ス。
6. (×150) 山○き○, 囊腫壁ノ網狀結締織層(1)ト板狀結締織層(2)ヲ示ス。「ヘムアラウン、ワンギーソン」染色。

遠藤論文附圖

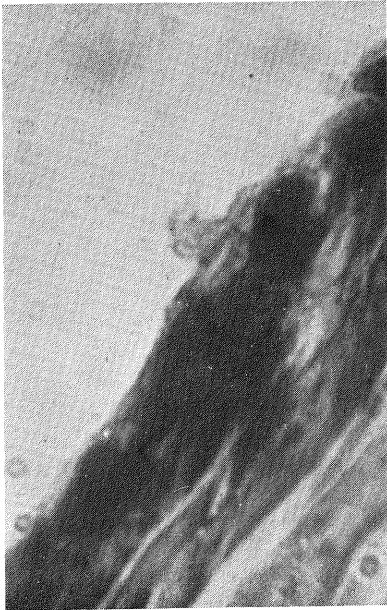
1



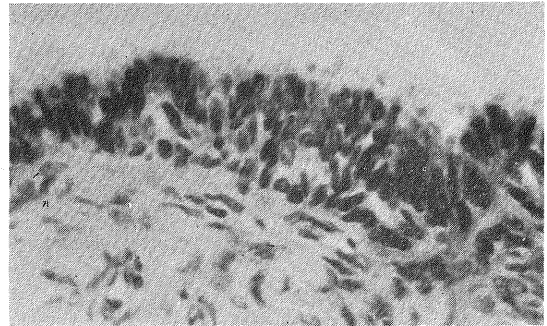
4



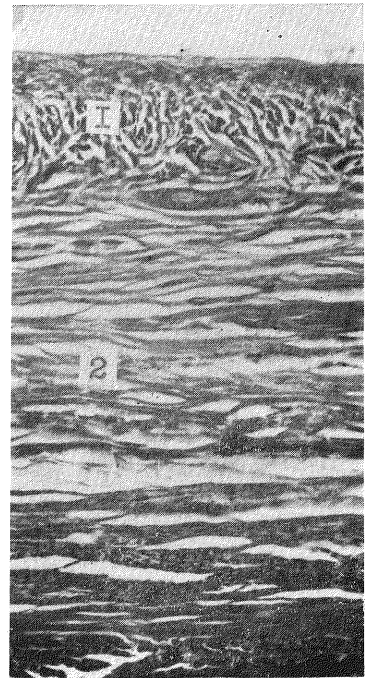
2



5



6



3

